

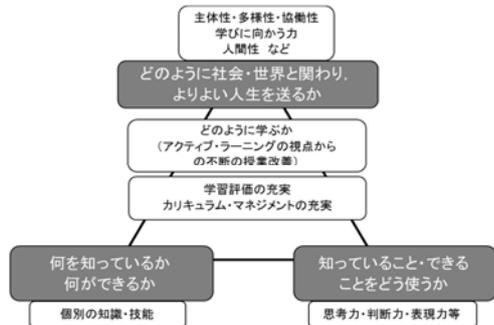
今回およそ10年ぶりに学習指導要領の改訂が行われ、平成32年度から小学校、中学校、高校と順次実施される予定です。

今回の改訂で、これからの学校教育がどのように変わるか、その概要をお知らせします。

学習指導要領ってなに？

全国のどの地域で教育を受けても、一定の教育水準の教育を受けられるようにするため、国は、各学校で編成する教育課程（カリキュラム）の基準を定めています。これを「学習指導要領」といいます。昭和33年以降、ほぼ10年おきに改訂されています。社会の変化や要請に応じて学校教育の在り方や教育内容の見直しが行われています。今回は、グローバル化の進展や人工知能（AI）の進化など、社会の急激な変化に対応した改訂となっています。

今回の学習指導要領改訂のねらいは？



今回の改訂で変わらなかつたのは、学校に「生きる力を育むこと」を求めている点です。そのことを踏まえて、今回、育てるべき資質・能力として「①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③学びに向かう力・人間性」が新たに示されています。

また、今回の改訂

では、「何を学ぶか」が中心だった従来の指導要領を転換し、「何ができるようにするか」、そのために「どのように学ぶか」など授業方法についても明示しています。

今、教師が一方的に教える授業から、子どもたちが討論やグループ活動でお互いに学び合う授業スタイルへの転換が求められています。文部科学省は、このような新しい授業の在り方を「主体的・対話的で深い学び」と定義し、学校現場での実現化を求めています。

具体的には何が変わるの？

小学校

まず、大きく変わるのが小学校英語です。

現在、小学校では小学5年生から「外国語活動」として主に英語学習が行われていますが、これを小学3年生から実施し、週1時間、「聞く・話す」を中心とした授業が行われる予定です。



これに伴い、小学5年生からは教科書を使う「読む・書く」活動も加わり、週2時間実施され、評価も行われます。

次に、プログラミング教育の必修化です。

情報活用能力育成の一環として、論理的思考力を高めるために、プログラミングを通してコンピュータに意図した処理を行わせる学習活動が導入されます。

中学校

国語科では、中学2年生で電子メールの書き

方についての学習が追加されます。理科では、これまで3年生で扱っていた自然災害に関する内容を全学年で学習することになります。

中学校での英語の授業は、日本語を使わず、原則英語で行われることとなります。

この他にも、中学校では、道徳が「特別の教科 道徳」になり、考え、議論する道徳教育に変わります。

新学習指導要領に向けた取組は？

今回の改訂では、英語が小学3年生から始まるなど、教える教師の指導力も重要となります。また、新しい教育内容に対する事前研究も必要となります。今後、市教育委員会では、実施に向けて教員研修の充実など、その準備に努めてまいります。

漢字検定全員合格！

財部南小学校

市では、英語検定や漢字検定など、各種検定を受検する小中学生に検定料を補助する制度を設けています。今年には中学生を中心に300名近い小中学生が、この制度を利用して各種検定を受検しました。

特に今年度は、この補助金制度を利用して、初めて小学生が漢字検定を受検しました。漢字検定に挑戦したのは、財部南小学校の15人の児童のみなさんです。しかも、全員合格という素晴らしい快挙を達成しました。

